

## 駅型保育で働く女性をサポート

1996年を皮切りに2003年度までに10園を開園した駅型保育園。2004年4月には埼京線沿線に新たに3園が開園した。「子育てしやすい沿線」づくり。駅型保育事業の新たな展開が始まる。



事業創造本部  
事業推進部門 課長  
新規事業グループリーダー

**田口 恵美子**

「点」から「線」の展開、子育てしやすい沿線という発想は鉄道会社ならではの、今後も地域に合った駅型保育事業を展開していきたい」

### 駅型保育園の開発は「点」から「線」へ 子育てしやすい沿線づくり

「駅型保育はステーションルネッサンス(駅の利便性向上)のひとつとして少子化と保育ニーズの高まりという社会的なニーズに応えることをめざしています」と話す事業創造本部田口恵美子課長は、埼京線沿線をターゲットに注力している理由をこう明かす。「これまでの小規模な単発開発ではなく、沿線づくりのモデルケースになればと思っています」。子育て世代が増え、既存の保育園の数が足りないという地域のニーズと、保育園を建設

▶ おひさま保育園は木の温もりを大切にしたり。ベテラン、経験者を中心に12名の保育士と看護師、栄養士で充実した保育体制を確立している



できる土地をJR東日本が所有していたこと、2つの条件が合致して『埼京線沿線駅型保育園』『子育てしやすい沿線づくり』の構想はスタートした。

こないきさつがある。新幹線建設当時、地元からの要請に基づいて、新幹線の騒音、振動の緩衝帯として、旧国鉄が沿線に土地を購入。その用地が荒川から大宮付近まで高架橋両側に幅約20mで続いている。「平成11年に、この土地をJR東日本が暫定的に利用することを認める、という文書を地元と交わしました。そこで初めて、駅型保育園を埼京線沿線に展開する素地が生まれました」と、大宮支社角田哲史副課長は言う。

「いちばん大きなハードルは自治体の理解でした」と角田は続ける。待機児童数の多い武蔵浦和駅以外は、保育園建設の必要はないとの判断で、当初の自治体の反応は冷めたものだったという。「駅型保育園をつくる意義を何度も説明に行き、ようやく理解していただくことができました」。苦労しても自治体の理解を求めて認可保育園にこだわったのは、保育料金が安く、安心感があるから。「埼玉県の場合、認可保育園でない保育料が高くなって、子育て支援につながらないんです」と角田。しかし3園を開園し利用者に喜ばれている実績がある現在では、行政側から誘いがかかるようになったと顔をほころばせる。





## 立地だけが売りではないきめこまやかなサービス

「通勤で駅を使われるお客さまは、通勤途中でお子さまの送迎ができますし、お子さまを預けたまま駅周辺でお買い物もできるのでとても便利です」と田口。だが、駅型保育園が提供する利便性は、立地だけにとどまらない。埼京線戸田駅にオープンしたおひさま保育園の高村勲園長は「できる限り働くお母さんのお手伝いをしたい。母親の育児負担を軽減することで、親と子どもと一緒に触れ合える有意義な時間をつくってほしい」と話す。

まず、利用者にもっとも喜ばれているのが長時間保育。おひさま保育園の場合は7時から20時までが保育時間だ。通常の保育園は入園後しばらく半日だけ預かる慣らし保育の期間があるがここではあえて実施しなかった。「お母さんの仕事には慣らし期間はありませんからね」。昼寝用の布団はリースも利用可能。迎えが遅くなる子どもには夕食も提供しているという。立地の利便性もさることながら、こういったきめのこまやかな対応が人気の秘訣なのだ。

## 地域住民全てに開かれた保育園をめざして

さらに、保育園を拠点として地域との交流も図っている。おひさま保育園では子育て支援事業を2004年7月から展開している。育児に関する面接相談を中心に、おもちゃづくりや、栄養士の指導による料理教室、絵本の読み聞かせ、救急法の講習、地域の高齢者を招いての交流会など、企画内容は多彩だ。これらの事業は園の利用者だけではなく、地域住民全てが対象。また、専業主婦を対象に児童の一時保育事業も行っている。「地域に開かれた保育園とするために、保育事業者のみなさんがいろいろ考えてくださることがありがたいです」と角田は言う。



大宮支社  
事業部開発課 副課長  
新幹線関連用地プロジェクト  
(現(株)ジェイアール宇都宮企画開発)  
**角田 哲史**

「『埼京線沿線駅型保育園』は、“子育てしやすい埼京線”として、埼京線のイメージアップにもつながり、最終的には沿線活性化につながるかと期待しています」

財団法人鉄道弘済会  
戸田駅前保育所  
おひさま保育園 園長  
**高村 勲氏**

「おひさま保育園の定員は0歳児から5歳児まで60名。ひとつのコミュニティとしてとてもよい環境です」



「これは行政、保育事業者、弊社グループの3者が連携をとって成立する社会貢献型の事業です。全ての関係者やお客さまに喜ばれる事業は進めていく価値があります」と田口。「2005年4月1日には、与野本町駅で老人デイサービスセンターを併設した認可保育園が開園します。また、埼京線に続きニューシャトル沿線にも2園が開園する予定。ゆくゆくは埼京線各駅につくっていきたいですね」と角田。地域のニーズと保育事業者の協力を背景に、各駅ごとの駅型保育園の設置、子育て支援沿線のさらなる展開をめざして、事業は拡大していく。



▶ 埼京線戸田駅から徒歩5分のおひさま保育園。鉄道の高架脇にあるため、防音や採光に配慮した建物



▶ 武蔵浦和Jキッズステーション(武蔵浦和駅)



▶ 戸田公園駅前さくら草保育園(戸田公園駅)